



2023年2月14日

各 位

会社名	ウルトラファブリックス・ ホールディングス株式会社
代表者名	代表取締役社長 吉村 昇
コード番号	4235 (東証スタンダード)
問合せ先	経営企画部長 高野 美香
電話番号	042-644-6515

中期経営計画策定に関するお知らせ

このたび、2023年12月期を初年度とする新たな中期経営計画（2023年度～2025年度）を策定いたしましたのでお知らせいたします。

記

2022年12月期は、2022年2月14日に発表した中期経営計画（2022年度～2024年度）に基づき諸施策をすすめてまいりました。業績につきましては、本日、同時に発表いたしました2022年12月期決算短信（連結）の通り、想定より大幅に円安で推移したことに加え、原材料費・燃料費・人件費や物流費の増加を一部価格改訂で対応したため、売上・利益ともに期初予想を上回り、2年先の利益目標を超えて着地しました。

このような業績動向や、経営環境の変化に迅速に対応するため、常に今後3カ年を見据えた経営計画を策定していくことが望ましいと考え、大きな基本方針の変更はないものの、新たな中期経営計画（2023年度～2025年度）を策定いたしました。

2023-2025 中期経営計画

2025年12月期業績目標：売上収益291億円 / 営業利益49億円 / EBITDA70億円

- ① 成長の複線化
- ② 規模拡大・収益性改善による財務企業価値の向上
- ③ サステナビリティの重視による非財務企業価値の向上

詳細につきましては、添付資料をご参照願います。

本件についてのお問い合わせは、当社経営企画部長 高野(042-644-6515)までお願いいたします。

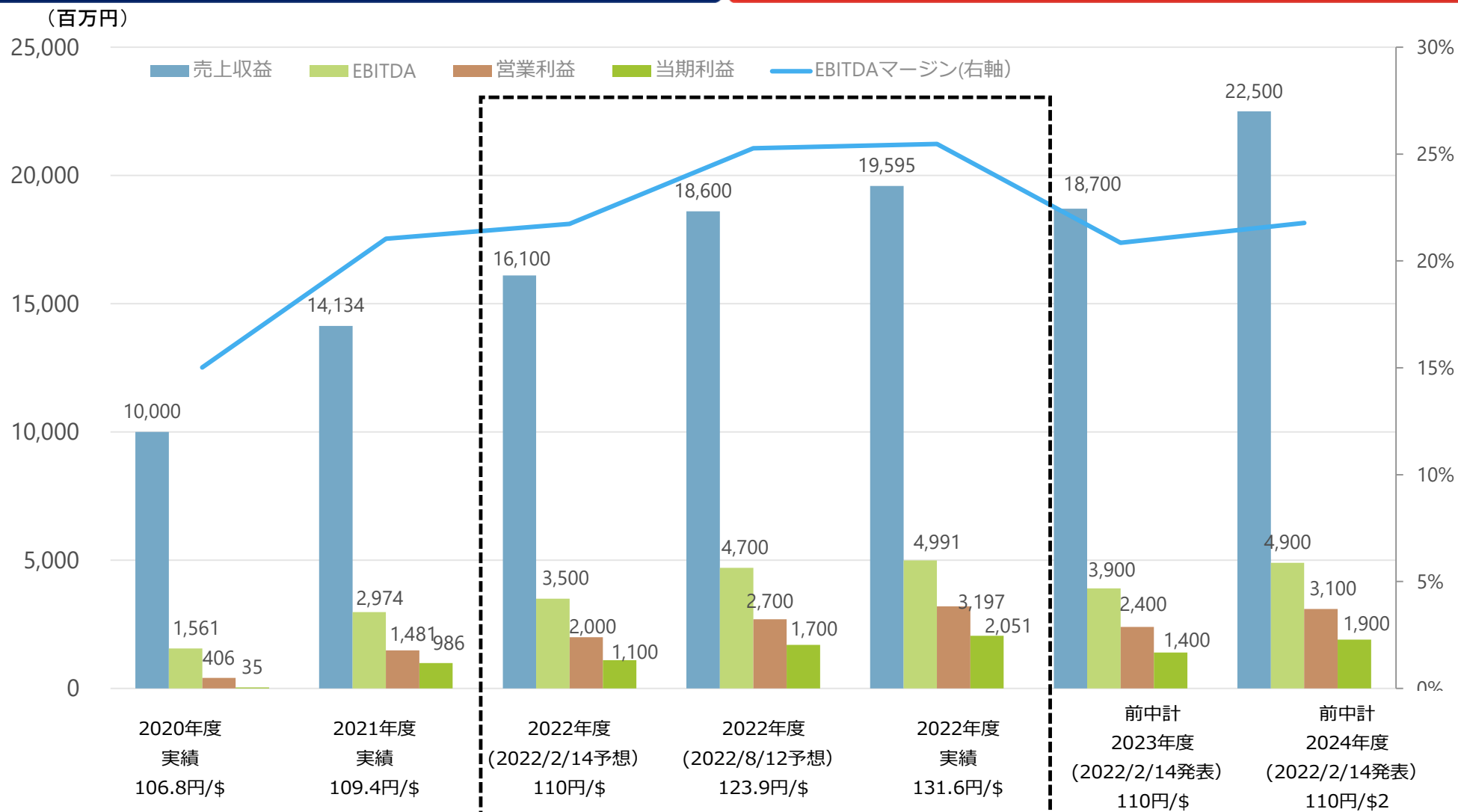
(注) 本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上

2023-2025 中期経営計画

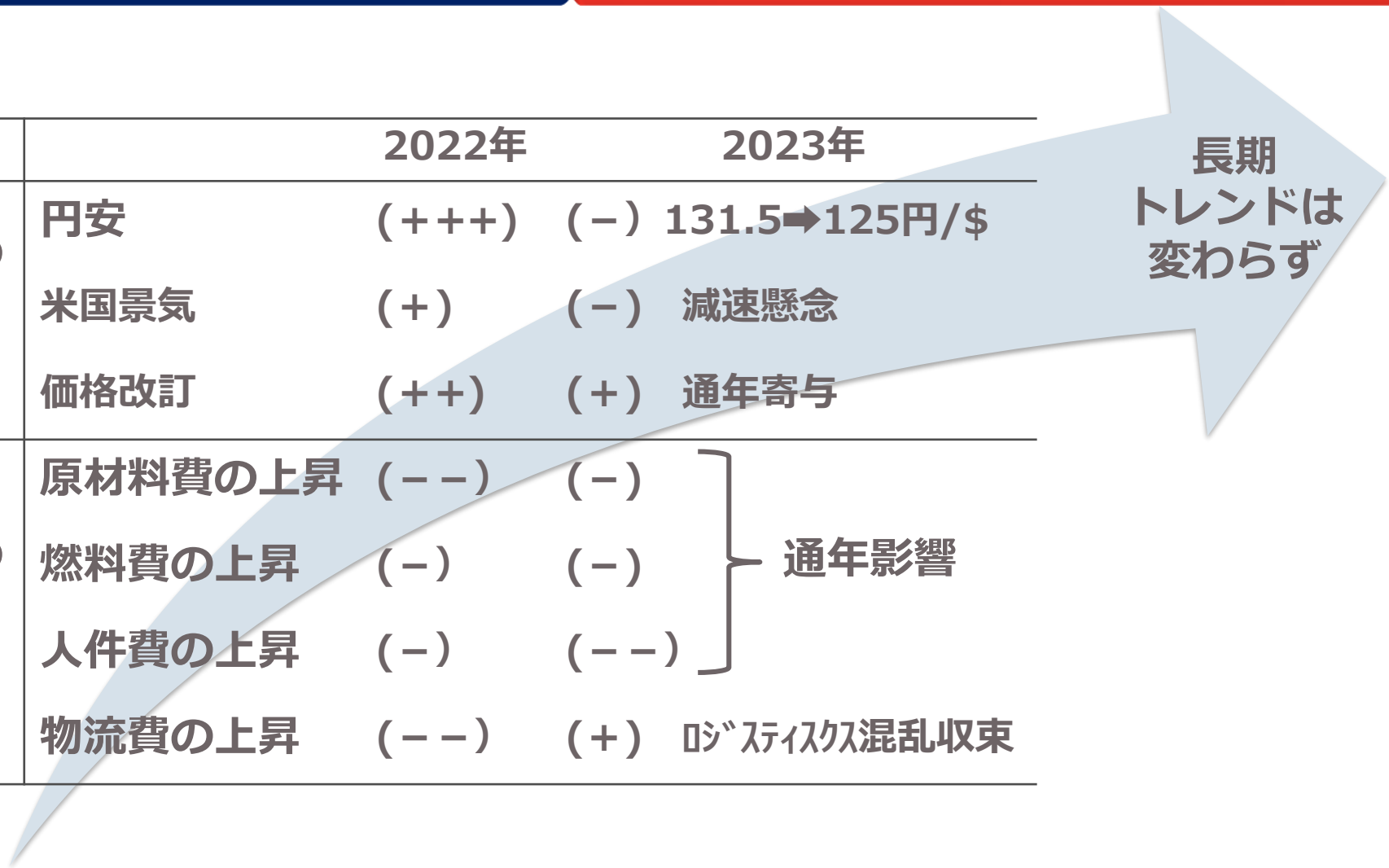


2022-2024 中期経営計画の進捗状況



2023年に予想される外部環境の変化

		2022年	2023年
2022年の プラス 要因	円安	(+++)	(-) 131.5⇒125円/\$
	米国景気	(+)	(-) 減速懸念
	価格改訂	(++)	(+) 通年寄与
2022年の マイナス 要因	原材料費の上昇	(--)	(-)
	燃料費の上昇	(-)	(-)
	人件費の上昇	(-)	(--)
	物流費の上昇	(--)	(+) ロジスティクス混乱収束



長期
トレンドは
変わらず

通年影響

前期初に発表した2022-2024中期経営計画から、足許の業績や環境の変化、為替前提の変更を反映させて、2023年からの3年計画にアップデート。
主な方針・施策に大幅な変更はなし。

▶2025年度業績目標

売上収益291億円 / 営業利益49億円 / EBITDA70億円
為替前提を110円/\$から125円/\$に変更。

▶成長の複線化

住居、自動車、航空機、レジャーなど、様々な場面における快適な空間を実現。
デザイン、触り心地、安全・清潔、サステナビリティという“快適さ”を追求。

▶ **規模拡大・収益性改善による財務企業価値の向上**

生産設備の老朽化対策・生産能力の増強。

協力企業を含めた生産キャパシティの拡充。

製品別ポートフォリオの見直しによる収益性の改善。

生産効率の改善。

▶ **サステナビリティの重視による非財務企業価値の向上**

バイオ/リサイクル原料によるサステナブル製品の開発。

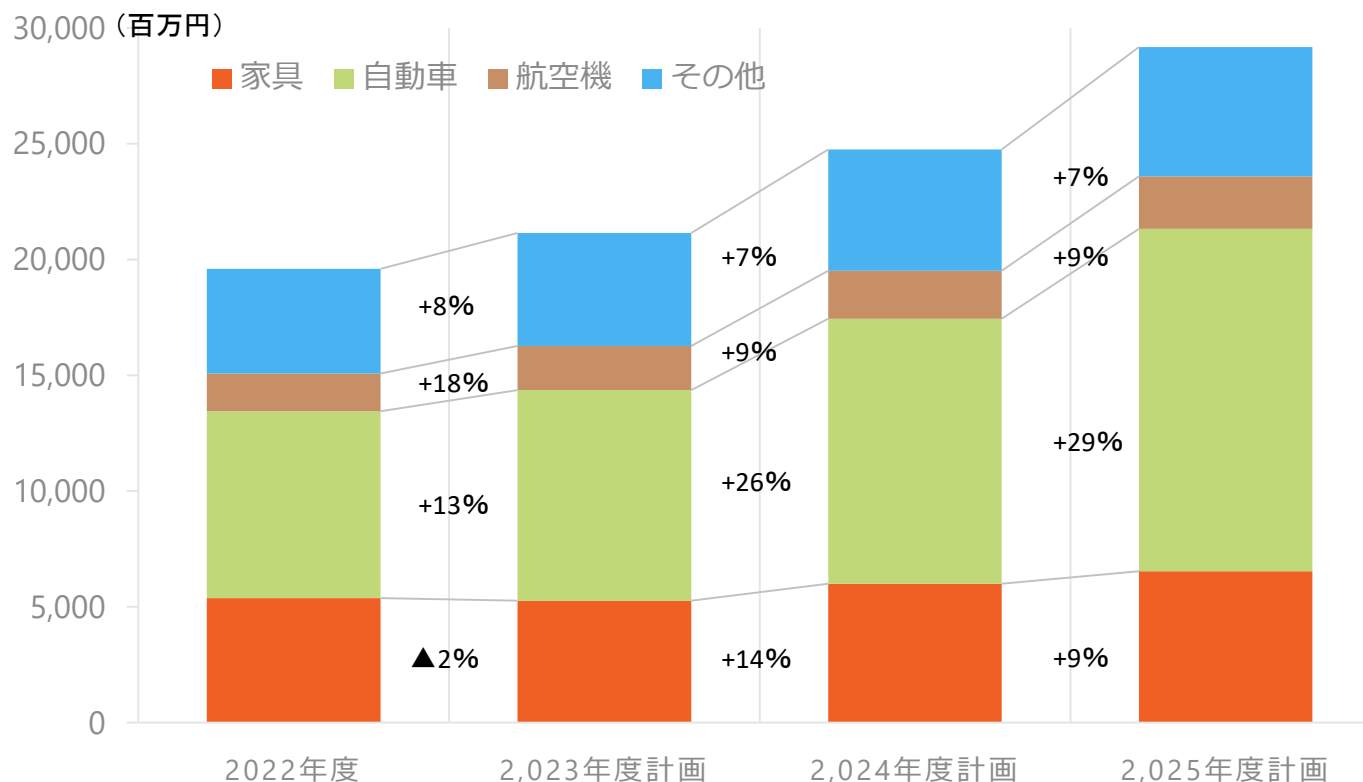
生産工程におけるサステナブル目標達成に向けたサステナブルプラント化の推進。

パートナー企業とのサステナブル目標の共有。

Ultrafabricsをサステナブルなブランドとして確立。

	2022年に掲げた施策	進捗状況
家具	<ul style="list-style-type: none"> オフィス家具の回復に加え、吸音性に優れたパーティション、レジデンシャル、（家庭用）アウトドア家具など新市場を開拓 拡大するヘルスケア市場への対応 リニューアルしたHP(Ultrafabrics Inc.)を活用したデジタルマーケティングの推進 	<ul style="list-style-type: none"> レジデンシャルは苦戦するも、オフィス・ヘルスケア・アウトドア向けは堅調 リニューアル後のHP訪問者数は2.5倍に
航空機	<ul style="list-style-type: none"> 航空業界の緩やかな回復を背景に、民間航空機向け新規プログラムを獲得 軽量化素材の拡販 	<ul style="list-style-type: none"> 軽量化素材『Atago』は順調にプログラムを獲得
自動車	<ul style="list-style-type: none"> 新規顧客（特にEV）に向けたシートプログラムの獲得 協力企業への生産サポート・品質管理の体制強化 	<ul style="list-style-type: none"> アライアンス推進室を設置してサポート体制を強化
R&D / 製品開発	<ul style="list-style-type: none"> バイオ/リサイクル製品の開発：2030年には全ての【Ultrafabrics】製品の原材料の50%以上をバイオ/リサイクル素材に 	<ul style="list-style-type: none"> 2022年のバイオ・リサイクル原材料比率は20.3%
製造	<ul style="list-style-type: none"> 工程進捗管理システムの有効活用による生産効率の改善 原材料コスト上昇への対応 生産設備の老朽化対策・効率化を目的とした新工場建設 製品別ポートフォリオ見直しのための損益管理体制の整備 将来的な生産能力増強に向けた計画策定 	<ul style="list-style-type: none"> 千代田工場の建設計画推進 協力企業も含めた生産能力拡大計画を策定
サステナビリティ	<ul style="list-style-type: none"> CO2排出量、水使用量、廃棄物削減などの生産工程における目標設定と実行計画の策定 上記目標達成に向けたサステナビリティ目的投資の実施 サプライヤーの環境保護、人権尊重等に対する意識の共有 	<ul style="list-style-type: none"> SBT for SMEsの認証取得 CO2排出量/水使用量/廃棄物の削減に向けた投資計画を具体化 サプライヤーアンケートを実施

2023-2025 中期経営計画 ～用途別売上計画～



- ▶ **家具**：ヘルスケア・オフィス家具向けを中心に安定的に成長。
- ▶ **自動車**：シート用素材を中心に高成長が続く。
- ▶ **航空機**：安定成長するビジネスジェット向けに加え、民間航空機向けが成長を牽引。
- ▶ **その他**：RV向けは安定推移だが、小型船舶などアウトドア製品向けが伸長。

(百万円)	2022年度	中期経営計画			
		2023年度	2024年度	2025年度	2022-2025 CAGR
売上収益	19,595	21,100	24,700	29,100	14.1%
売上総利益	9,670	9,900	11,100	12,200	8.1%
営業利益	3,197	3,500	4,100	4,900	15.3%
税引前当期利益	2,865	3,000	3,700	4,400	15.4%
当期利益	2,051	2,100	2,400	2,900	12.2%
EBITDA	4,991	5,100	5,900	7,000	11.9%

	2025vs.2022				
売上総利益率	49.4%	46.9%	44.9%	41.9%	-7.5P
営業利益率	16.3%	16.6%	16.6%	16.8%	+0.5P
EBITDA率	25.5%	24.2%	23.9%	24.1%	-1.4P
ROE	16.2%	14.9%	15.0%	15.7%	-0.5P
完全希薄化ベース株式数	9,473,243	9,530,043	10,502,651	10,559,451	-
1株当たり利益(円)	216.6	220.4	228.5	274.6	-
前提為替レート(¥/\$)	131.5	125.0	125.0	125.0	-

▶2023年は増収小幅増益。

堅調な売上収益を予想するものの、為替動向など、2022年に比べてマイナスの外部要因が増加するため、増益幅は小幅に留まる。

▶3年間の平均増益率は約15%。

アウトソーシングの拡大・千代田工場の稼働による減価償却費の増加・生産工程におけるサステナビリティ推進費用により、売上総利益率は2022年比7.5P低下するも、売上規模拡大による固定費比率の低下で営業利益率は同0.5P改善する見込み。

▶ROEは15%前後で、緩やかに上昇。

▶為替変動による営業利益へのインパクトは1円/\$の円安で+80百万円と想定。適切なヘッジ手法の活用により、為替変動の影響を抑制する。

(百万円)	2022年度	中期経営計画		
		2023年度	2024年度	2025年度
当期利益	2,051	2,100	2,400	2,900
減価償却費及び償却費	1,534	1,300	1,400	1,800
運転資金増減 等	-1,419	600	1,000	500
営業キャッシュフロー	2,166	4,000	4,800	5,200
投資キャッシュフロー	425	-2,000	-4,000	-800
財務キャッシュフロー	-2,112	0	0	-4,000
トータルキャッシュフロー	479	2,000	800	400

一株当たり配当金 (円)			
普通株式	62	62	
優先株式	68	68	
配当金総額	566	570	
配当性向	27.6%	27.1%	

- ▶ 3年間の営業CFの合計は140億円。
- ▶ 千代田工場建設投資52億円、既存工場の更新投資・R&D関連投資16億円で3年間の設備投資は計68億円。うち、17億円を太陽光パネルや水素ボイラーの設置などサステナビリティ目的の投資に充当。
- ▶ 既存借入金の約定弁済、金利・配当金の支払いを、新規借入でまかなうが、有利子負債残高は減少し、ネットD/Eレシオも改善する見込み。
- ▶ 高水準の設備投資需要が継続することから、創出する利益を投資・内部留保・株主還元バランスよく配分することを念頭におき、配当性向は概ね30%を目処とする。
- ▶ 2023年度の一株当たり配当金は、普通株式で62円とする見込み。